

## 次世代 IP ネットワーク推進フォーラム 研究開発・標準化部会会合(第 3 回) 議事録

日時:平成 20 年 3 月 4 日(水) 10:00 ~ 11:10

場所:都市センターホテル 6 階 606 会議室

出席者

研究開発・標準化部会長 浅谷耕一(工学院大学)

戦略検討 WG サブリーダー 三澤康臣(KDDI 株式会社)

ホームネットワーク WG サブリーダー 高呂賢治(沖電気工業株式会社)

他 23 名

総務省

通信規格課 田中課長、荻原標準化推進官、沼田課長補佐、石崎専門職、増子係長、川崎係長

配付資料

資料 1 戦略検討 WG 報告書

資料 2 ホームネットワーク WG 報告及び今後の活動方針

資料 3 ICT分野における国際標準化戦略の検討状況について

参考資料 1 研究開発・標準化部会(第 2 回)議事録

参考資料 2 研究開発・標準化部会 設置要綱

参考資料 3 研究開発・標準化部会 構成員一覧

参考資料 4 第 2 回定期総会イベントの開催

議事内容:

1. 開会 (事務局)

2. 総務省挨拶 (田中課長)

標準化動向のトピックとしては、今年 10 月に WTSA08(南アフリカヨハネスブルグ)が開催される予定。ITU-T の組織再編、および 14 の SG のうち 11 の SG で議長・副議長の改選が行われる。情報通信技術の変革が激しい中で、より良い標準化組織をめざしていくよいチャンスである。

WTSA08 については、標準化動向を踏まえた戦略的な取り組みが必要であり、NGN の標準化も大きなポイントとなっている。NGN はリリース 1 以降、リリース 2、その上に載る IPTV やホームネットワークなどアプリの分野に広がっている。これまで ITU はキャリア中心の標準化組織であったが、今後はメーカの国際市場参入のための標準化組織に変えていきたい。

こういった標準化動向を踏まえ、3 月から NGN のリリース 2 の標準化を目指して、日中韓で NGN の相互接続テストベッドを本格的に開始し、相互接続実験を行う。製品開発やこれからの市場を考えていく上で、標準の調整や実装標準を作っていくことが重要である。これをきっかけに今後のアジア市場、NGN リリース 2 の国際標準化に向け、力を発揮していきたい。

WTSA08 に向けて様々なしかけを考えており、部会の検討結果を反映させていただいている。様々な標準化の分野について今後も細かく戦略を立てていく必要がある。そのために

現在情報通信審議会では標準化戦略について検討いただいているが、この成果を受けて6月頃に標準化知財センターを立ち上げ、取り組みを強めていく予定である。国際市場参入のためには、産官学一体の国際標準化、国際市場への取り組みが重要である。本部会においても今後の国際市場をにらんだ研究開発や標準化の共通理解、今後の動向について有意義な議論を期待している。

### 3. 配付資料確認

事務局により、配布資料の確認がなされた。

### 4. 議事

#### (1) 戦略検討WGの活動報告及び今後の活動方針について

資料1に基づき、浅谷部会長より説明。

質疑応答:特になし

#### (2) ホームネットワークWGの活動報告及び今後の活動方針について

資料2に基づき、ホームネットワークWG高呂サブリーダーより説明。

質疑応答:

浅谷部会長:HNWGそのものの活動は全てSWGで行われているのか。

高呂サブリーダー:SWGで検討した内容についてWGで報告し、方向付けを行っている。

質問:今後ユースケースを検討していく上で、ネットワークサービスプロバイダを取り込む方策は考えられているか。

高呂サブリーダー:そのような方向をにらんだ参加者の募集は行っている。また、実証実験などを機会に参加が増えるのではないかと考えている。

浅谷部会長:実証実験イメージ(参考資料2)にあるセンサー系は、ホームネットワークでは重要な要素である。SG13でユビキタスセンサーネットワークの課題が上がっており、ここで検討されているセンサーネットワークが足回りの位置づけになる可能性もあるのでうまく連携することが必要である。

高呂サブリーダー:SG13との連携は考えていなかった。今後SG13の動向をウォッチしていきたい。

浅谷部会長:今後IPTVも大きな柱となってくるので、連携が必要である。

高呂サブリーダー:IPTVについてはすでに動向をウォッチしている。

#### (3) その他

ICT分野における国際標準化戦略の検討状況について

資料3に基づき、総務省より説明

浅谷部会長:重点技術分野としてもNGNIPTV技術、ホームネットワーク、ユビキタスが今後の重要な要素技術となっており、本フォーラムの活動を反映させていきたい。

質疑応答:

質問:学会での検討状況、参加者の状況を教えていただきたい。

浅谷部会長：学会では技術に関する時限研究会をタイムリーに立ち上げることはあるが、標準化を柱とする研究会は存在しない。研究開発面では学会での動機付け、人材のプロモートといった立場での活動も重要であると考えている。特にセキュリティなどは学会でもホットなトピックである。標準そのものを作るというよりは、学会の立場で貢献することができるのではないかと考えており、学会内の調整も行っていきたい。

次回の予定について

事務局より説明

- ・ 次回会合は、来年3月を目途に開催予定である。詳細はWGの状況を踏まえ、別途連絡する。

第2回定期総会について

参考資料4に基づき、事務局より説明

5. 閉会（浅谷部会長）

以上